

シラバスガイドライン

(資格関連科目)

目 次

I シラバスガイドライン（資格関連科目）

栄養士指定科目 2

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

保育士指定科目 4

* 教科目の教授内容

秘書士科目 37

* 秘書士カリキュラムガイドライン

プレゼンテーション実務士科目 40

* プレゼンテーション実務士カリキュラムガイドライン

栄養士指定科目

*教育内容ごとの具体的な教育目標

平成 13 年 9 月 21 日 健発第 935 号
「栄養士法施行令の一部を改正する政令等の施行について」
の「指定基準」（参考 1）（参考 2）による

【栄養士】

教育内容	本学授業科目	教育目標
社会生活と健康	公衆衛生学 社会福祉論	〔目標〕 社会や環境と健康との関係を理解するとともに、保健・医療・福祉・介護システムの概要について修得する。 公衆衛生学、社会福祉概論を含むものとする。
人体の構造と機能	解剖学 生化学 生理学 臨床医学概論 解剖生理学実習 生化学実験	〔目標〕 人体の仕組みについて構造や機能を理解し、食事、運動、休養などの基本的な生活活動や環境変化に対する人体の適応について修得する。 解剖学、生理学、生化学を含むものとする。
食品と衛生	基礎食品学 応用食品学 食品衛生学 食品学実験 食品衛生学実験	〔目標〕 食品の各種成分の栄養特性について理解するとともに、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について修得する。 食品学（食品加工学を含む）、食品衛生学を含むものとする。
栄養と健康	基礎栄養学 応用栄養学 臨床栄養学 健康食育論 栄養学実習Ⅰ 栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習	〔目標〕 栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解するとともに、性、年齢、生活・健康状態等における栄養生理的特徴及び各種疾患における基本的な食事療法について修得する。 栄養学、臨床栄養学概論を含むものとする。
栄養の指導	栄養教育・指導論 栄養カウンセリング論 公衆栄養学 栄養情報処理演習 栄養教育・指導論実習	〔目標〕 個人、集団及び地域レベルでの栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について理解する。また基本的な栄養指導の方法について修得する。 栄養指導論、公衆栄養学概論を含むものとする。
給食の運営	給食計画実務論 調理学 給食運営管理実習Ⅰ 給食運営管理実習Ⅱ 校外実習 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ クリエイティブクッキング	〔目標〕 給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。 調理学、給食計画論、給食実務論を含むものとする。また、校外実習1単位以上を含むものとする。

保育士指定科目

*教科目の教授内容

令和4年8月31日 子発0831第1号
「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」別添1による

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 保育原理（講義・2単位）

<目標>

1. 保育の意義及び目的について理解する。
2. 保育に関する法令及び制度を理解する。
3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 保育の意義及び目的
 - (1) 保育の理念と概念
 - (2) 子どもの最善の利益と保育
 - (3) 子ども家庭福祉と保育
 - (4) 保育の社会的役割と責任
2. 保育に関する法令及び制度
 - (1) 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令
 - (2) 子ども・子育て支援新制度
 - (3) 保育の実施体系
3. 保育所保育指針における保育の基本
 - (1) 保育所保育指針
 - (2) 保育所保育に関する基本原則
 - (3) 保育における養護
 - (4) 保育の目標
 - (5) 保育の内容
 - (6) 保育の環境・方法
 - (7) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環
4. 保育の思想と歴史的変遷
 - (1) 諸外国の保育の思想と歴史
 - (2) 日本の保育の思想と歴史
5. 保育の現状と課題
 - (1) 諸外国の保育の現状
 - (2) 日本の保育の現状と課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 教育原理（講義・2単位）

<目標>

1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性
 - (1) 教育の意義
 - (2) 教育の目的
 - (3) 乳幼児期の教育の特性
 - (4) 教育と子ども家庭福祉の関連性
 - (5) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性
2. 教育の思想と歴史的変遷
 - (1) 諸外国の教育の思想と歴史
 - (2) 日本の教育の思想と歴史
 - (3) 子ども観と教育観の変遷
3. 教育の制度
 - (1) 教育制度の基礎
 - (2) 教育法規・教育行政の基礎
 - (3) 諸外国の教育制度
4. 教育の実践
 - (1) 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）
 - (2) 教育実践の多様な取り組み
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題
 - (1) 生涯学習社会と教育
 - (2) 現代の教育課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭福祉（講義・2単位）

<目標>

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

<内容>

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷
 - (1) 子ども家庭福祉の理念と概念
 - (2) 子ども家庭福祉の歴史の変遷
 - (3) 現代社会と子ども家庭福祉
2. 子どもの人権擁護
 - (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷
 - (2) 児童の権利に関する条約
 - (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題
3. 子ども家庭福祉の制度と実施体系
 - (1) 子ども家庭福祉の制度と法体系
 - (2) 子ども家庭福祉の実施体系
 - (3) 児童福祉施設
 - (4) 子ども家庭福祉の専門職
4. 子ども家庭福祉の現状と課題
 - (1) 少子化と地域子育て支援
 - (2) 母子保健と子どもの健全育成
 - (3) 多様な保育ニーズへの対応
 - (4) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止
 - (5) 社会的養護
 - (6) 障害のある子どもへの対応
 - (7) 少年非行等への対応
 - (8) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
5. 子ども家庭福祉の動向と展望
 - (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
 - (2) 地域における連携・協働とネットワーク
 - (3) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 社会福祉（講義・2単位）

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

<内容>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の歴史的変遷
 - (3) 子ども家庭支援と社会福祉
2. 社会福祉の制度と実施体系
 - (1) 社会福祉の制度と法体系
 - (2) 社会福祉行財政と実施機関
 - (3) 社会福祉施設
 - (4) 社会福祉の専門職
 - (5) 社会保障及び関連制度の概要
3. 社会福祉における相談援助
 - (1) 相談援助の理論
 - (2) 相談援助の意義と機能
 - (3) 相談援助の対象と過程
 - (4) 相談援助の方法と技術
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み
 - (1) 情報提供と第三者評価
 - (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
5. 社会福祉の動向と課題
 - (1) 少子高齢化社会における子育て支援
 - (2) 共生社会の実現と障害者施策
 - (3) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (4) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭支援論（講義・2単位）

<目標>

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

<内容>

1. 子ども家庭支援の意義と役割
 - (1) 子ども家庭支援の意義と必要性
 - (2) 子ども家庭支援の目的と機能
2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本
 - (1) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
 - (2) 子どもの育ちの喜びの共有
 - (3) 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
 - (4) 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
 - (5) 家庭の状況に応じた支援
 - (6) 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
3. 子育て家庭に対する支援の体制
 - (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 - (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
4. 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子ども家庭支援の内容と対象
 - (2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
 - (3) 地域の子育て家庭への支援
 - (4) 要保護児童等及びその家庭に対する支援
 - (5) 子ども家庭支援に関する現状と課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 社会的養護 I (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷
 - (1) 社会的養護の理念と概念
 - (2) 社会的養護の歴史の変遷
2. 社会的養護の基本
 - (1) 子どもの人権擁護と社会的養護
 - (2) 社会的養護の基本原則
 - (3) 社会的養護における保育士等の倫理と責務
3. 社会的養護の制度と実施体系
 - (1) 社会的養護の制度と法体系
 - (2) 社会的養護の仕組みと実施体系
4. 社会的養護の対象・形態・専門職
 - (1) 社会的養護の対象
 - (2) 家庭養護と施設養護
 - (3) 社会的養護に関わる専門職
5. 社会的養護の現状と課題
 - (1) 社会的養護に関する社会的状況
 - (2) 施設等の運営管理
 - (3) 被措置児童等の虐待防止
 - (4) 社会的養護と地域福祉

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 保育者論（講義・2単位）

<目標>

1. 保育者の役割と倫理について理解する。
2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。
3. 保育士の専門性について考察し、理解する。
4. 保育者の連携・協働について理解する。
5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

<内容>

1. 保育者の役割と倫理
 - (1) 役割・職務内容
 - (2) 倫理
2. 保育士の制度的位置付け
 - (1) 児童福祉法における保育士の定義
 - (2) 資格・要件
 - (3) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等
3. 保育士の専門性
 - (1) 保育士の資質・能力
 - (2) 養護及び教育の一体的展開
 - (3) 家庭との連携と保護者に対する支援
 - (4) 計画に基づく保育の実践と省察・評価
 - (5) 保育の質の向上
4. 保育者の連携・協働
 - (1) 保育における職員間の連携・協働
 - (2) 専門職間及び専門機関との連携・協働
 - (3) 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
5. 保育者の資質向上とキャリア形成
 - (1) 資質向上に関する組織的取組
 - (2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
 - (3) 組織とリーダーシップ

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 保育の心理学（講義・2単位）

<目標>

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

<内容>

1. 発達を捉える視点
 - (1) 子どもの発達を理解することの意義
 - (2) 子どもの発達と環境
 - (3) 発達理論と子ども観・保育観
2. 子どもの発達過程
 - (1) 社会情動的発達
 - (2) 身体的機能と運動機能の発達
 - (3) 認知の発達
 - (4) 言語の発達
3. 子どもの学びと保育
 - (1) 乳幼児期の学びに関わる理論
 - (2) 乳幼児期の学びの過程と特性
 - (3) 乳幼児期の学びを支える保育

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭支援の心理学（講義・2単位）

<目標>

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

<内容>

1. 生涯発達
 - (1) 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
 - (2) 学童期後期から青年期にかけての発達
 - (3) 成人期・老年期における発達
2. 家族・家庭の理解
 - (1) 家族・家庭の意義と機能
 - (2) 親子関係・家族関係の理解
 - (3) 子育ての経験と親としての育ち
3. 子育て家庭に関する現状と課題
 - (1) 子育てを取り巻く社会的状況
 - (2) ライフコースと仕事・子育て
 - (3) 多様な家庭とその理解
 - (4) 特別な配慮を要する家庭
4. 子どもの精神保健とその課題
 - (1) 子どもの生活・生育環境とその影響
 - (2) 子どもの心の健康に関わる問題

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの理解と援助（演習・1単位）

<目標>

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<内容>

1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
 - (1) 保育における子どもの理解の意義
 - (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開
 - (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
2. 子どもを理解する視点
 - (1) 子どもの生活や遊び
 - (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
 - (3) 子ども相互の関わりと関係づくり
 - (4) 集団における経験と育ち
 - (5) 葛藤やつまずき
 - (6) 保育の環境の理解と構成
 - (7) 環境の変化や移行
3. 子どもを理解する方法
 - (1) 観察
 - (2) 記録
 - (3) 省察・評価
 - (4) 職員間の対話
 - (5) 保護者との情報の共有
4. 子どもの理解に基づく発達援助
 - (1) 発達の課題に応じた援助と関わり
 - (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
 - (3) 発達の連続性と就学への支援

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの保健（講義・2単位）

<目標>

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

<内容>

1. 子どもの心身の健康と保健の意義
 - (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
 - (4) 地域における保健活動と子ども虐待防止
2. 子どもの身体的発育・発達と保健
 - (1) 身体発育及び運動機能の発達と保健
 - (2) 生理機能の発達と保健
3. 子どもの心身の健康状態とその把握
 - (1) 健康状態の観察
 - (2) 心身の不調等の早期発見
 - (3) 発育・発達の把握と健康診断
 - (4) 保護者との情報共有
4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応
 - (1) 主な疾病の特徴
 - (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの食と栄養（演習・2単位）

<目標>

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、
「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等

<内容>

1. 子どもの健康と食生活の意義
 - (1) 子どもの心身の健康と食生活
 - (2) 子どもの食生活の現状と課題
2. 栄養に関する基本的知識
 - (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
 - (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3. 子どもの発育・発達と食生活
 - (1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
 - (2) 幼児期の心身の発達と食生活
 - (3) 学童期の心身の発達と食生活
 - (4) 生涯発達と食生活
4. 食育の基本と内容
 - (1) 保育における食育の意義・目的と基本的考え方
 - (2) 食育の内容と計画及び評価
 - (3) 食育のための環境
 - (4) 地域の関係機関や職員間の連携
 - (5) 食生活指導及び食を通じた保護者への支援
5. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - (1) 家庭における食事と栄養
 - (2) 児童福祉施設における食事と栄養
6. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
 - (1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
 - (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
 - (3) 障害のある子どもへの対応

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育の計画と評価（講義・2単位）

<目標>

1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。

<内容>

1. 保育の計画と評価の基本
 - (1) カリキュラムの基礎理論
 - (2) 保育における計画と評価の意義
 - (3) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上
2. 保育所における保育の計画
 - (1) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景
 - (2) 保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方
 - (3) 全体的な計画と指導計画の関係性
 - (4) 全体的な計画の作成
 - (5) 指導計画（長期的・短期的）の作成
 - (6) 指導計画作成上の留意事項
 - (7) 計画に基づく保育の柔軟な展開
3. 保育所における保育の評価
 - (1) 保育の記録及び省察
 - (2) 保育士及び保育所の自己評価
 - (3) 保育の質向上に向けた改善の取組
 - (4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容総論（演習・1単位）

<目標>

1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。
4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。

<内容>

1. 保育の全体構造と保育内容
 - (1) 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
 - (2) 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景
 - (3) 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方
2. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
[保育の基本的な考え方]
 - ・養護及び教育が一体的に展開する保育
 - ・子どもの主体性を尊重する保育
 - ・環境を通して行う保育
 - ・生活や遊びによる総合的な保育
 - ・個と集団の発達を踏まえた保育
 - ・家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育 等
3. 保育の多様な展開
 - (1) 長時間の保育
 - (2) 特別な配慮を要する子どもの保育
 - (3) 多文化共生の保育

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容演習（演習・5単位）

<目標>

1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。
2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域（「健康・人間関係・環境・言葉・表現」）を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。
3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。
4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。

<内容>

以下の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりである「養護」
 - ① 子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、快適に過ごすための生活援助
 - ② 子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助や関わり
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」
 - (1) 保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点
 - ① 「健やかに伸び伸びと育つ」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う）
 - ② 「身近な人と気持ちが通じ合う」（受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う）
 - ③ 「身近なものに関わり感性が育つ」（身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う）
 - (2) 保育所保育指針に示す1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育におけるそれぞれ5つの領域
 - ① 「健康」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う）
 - ② 「人間関係」（他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う）
 - ③ 「環境」（周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う）
 - ④ 「言葉」（経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す

言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う)

- ⑤ 「表現」(感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする)

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容の理解と方法（演習・4単位）

<目標>

1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

<内容>

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験（※）と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。

1. 子どもの生活と遊びにおける他者（保育士等や他の子ども）との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術
2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要となる知識及び技術
3. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要となる知識及び技術

※子どもの生活と遊びにおける体験の例

- ① 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験
- ② 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験
- ③ 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ体験
- ④ 子ども自らが児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）に親しむ体験

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 乳児保育Ⅰ（講義・2単位）

<目標>

1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。

<内容>

1. 乳児保育の意義・目的と役割
 - (1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
 - (2) 乳児保育の役割と機能
 - (3) 乳児保育における養護及び教育
2. 乳児保育の現状と課題
 - (1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
 - (2) 保育所における乳児保育
 - (3) 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
 - (4) 家庭的保育等における乳児保育
 - (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
 - (1) 3歳未満児の生活と環境
 - (2) 3歳未満児の遊びと環境
 - (3) 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
 - (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
 - (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
 - (6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
4. 乳児保育における連携・協働
 - (1) 職員間の連携・協働
 - (2) 保護者との連携・協働
 - (3) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 乳児保育Ⅱ（演習・1単位）

<目標>

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。

<内容>

1. 乳児保育の基本
 - (1) 子どもと保育士等との関係の重要性
 - (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
 - (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち
 - (4) 子どもの体験と学びの芽生え
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
 - (1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境
 - (2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
 - (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
 - (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
 - (5) 子ども同士の関わりとその援助の実際
3. 乳児保育における配慮の実際
 - (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
 - (2) 集団での生活における配慮
 - (3) 環境の変化や移行に対する配慮
4. 乳児保育における計画の実際
 - (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画
 - (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名>子どもの健康と安全（演習・1単位）

<目標>

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

<内容>

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
 - (1) 子どもの健康と保育の環境
 - (2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
2. 保育における健康及び安全の管理
 - (1) 衛生管理
 - (2) 事故防止及び安全対策
 - (3) 危機管理
 - (4) 災害への備え
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応
 - (1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応
 - (2) 応急処置
 - (3) 救急処置及び救急蘇生法
4. 感染症対策
 - (1) 感染症の集団発生の予防
 - (2) 感染症発生時と罹患後の対応
5. 保育における保健的対応
 - (1) 保育における保健的対応の基本的な考え方
 - (2) 3歳未満児への対応
 - (3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）
 - (4) 障害のある子どもへの対応
6. 健康及び安全の管理の実施体制

- (1) 職員間の連携・協働と組織的取組
- (2) 保育における保健活動の計画及び評価
- (3) 母子保健・地域保健における自治体との連携
- (4) 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 障害児保育（演習・2単位）

<目標>

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

<内容>

1. 障害児保育を支える理念
 - (1) 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
 - (2) 障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
2. 障害児等の理解と保育における発達の援助
 - (1) 肢体不自由児の理解と援助
 - (2) 知的障害児の理解と援助
 - (3) 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助
 - (4) 発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）
 - (5) 発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等）
 - (6) 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助
 - (7) その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際
 - (1) 指導計画及び個別の支援計画の作成
 - (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - (3) 子ども同士の関わりと育ち合い
 - (4) 障害児保育における子どもの健康と安全
 - (5) 職員間の連携・協働
4. 家庭及び自治体・関係機関との連携
 - (1) 保護者や家族に対する理解と支援
 - (2) 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援
 - (3) 障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働
 - (4) 小学校等との連携
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題
 - (1) 保健・医療における現状と課題
 - (2) 福祉・教育における現状と課題

(3) 支援の場の広がりつつながり

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 社会的養護Ⅱ（演習・1単位）

<目標>

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

<内容>

1. 社会的養護の内容
 - (1) 社会的養護における子どもの理解
 - (2) 日常生活支援
 - (3) 治療的支援
 - (4) 自立支援
2. 社会的養護の実際
 - (1) 施設養護の生活特性及び実際
 - (2) 家庭養護の生活特性及び実際
3. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
 - (1) アセスメントと個別支援計画の作成
 - (2) 記録及び自己評価
4. 社会的養護に関わる専門的技術
 - (1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
 - (2) 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
5. 今後の課題と展望
 - (1) 社会的養護における家庭支援
 - (2) 社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 子育て支援（演習・1単位）

<目標>

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

<内容>

1. 保育士の行う子育て支援の特性
 - (1) 子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - (2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
 - (3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
 - (4) 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
2. 保育士の行う子育て支援の展開
 - (1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握
 - (2) 支援の計画と環境の構成
 - (3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
 - (4) 職員間の連携・協働
 - (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）
 - (1) 保育所等における支援
 - (2) 地域の子育て家庭に対する支援
 - (3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
 - (4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
 - (5) 子ども虐待の予防と対応
 - (6) 要保護児童等の家庭に対する支援
 - (7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

【保育実習】

<教科目名> 保育実習 I (実習・4単位：保育所実習2単位・施設実習2単位)

<目標>

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

<保育所実習の内容>

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

<児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容>

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 施設における子どもの生活と環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応
 - (3) 子どもの活動と環境

(4) 健康管理、安全対策の理解

4. 計画と記録

(1) 支援計画の理解と活用

(2) 記録に基づく省察・自己評価

5. 専門職としての保育士の役割と倫理

(1) 保育士の業務内容

(2) 職員間の役割分担や連携

(3) 保育士の役割と職業倫理

【保育実習】

<教科目名> 保育実習指導 I (演習・2単位)

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容
 - (2) 実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
 - (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
 - (2) プライバシーの保護と守秘義務
 - (3) 実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
 - (1) 実習における計画と実践
 - (2) 実習における観察、記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

<教科目名> 保育実習Ⅱ（実習・2単位：保育所実習）

<目標>

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

<内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となっていく保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育の理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の援助や関わり
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
 - (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
 - (3) 関係機関や地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
 - (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

<教科目名> 保育実習Ⅲ（実習・2単位：保育所以外の施設実習）

<目標>

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 実習における自己の課題を理解する。

<内容>

1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
2. 施設における支援の実際
 - (1) 受容し、共感する態度
 - (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解
 - (3) 個別支援計画の作成と実践
 - (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応
 - (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働
 - (6) 地域社会との連携・協働
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

<教科目名> 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習・1単位）

<目標>

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<内容>

1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 保育の実践力の育成
 - (1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
 - (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

【総合演習】

<教科目名> 保育実践演習（演習・2単位）

<目標>

1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。
2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。
3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。

<内容>

1. 学びの振り返り

グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し、以下の①～④の観点を中心に、これまでの自らの学びを、保育実習等における体験と結びつけながら振り返る。

- ① 保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理
- ② 社会性、対人関係能力
- ③ 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携
- ④ 保育や子育て家庭に対する支援の展開

2. 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究

グループワークや研究発表、討論等により、保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。

3. 1及び2を踏まえて、自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握する。

その上で、目指す保育士像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化する。

秘書士科目

*秘書士カリキュラムガイドライン

「秘書士系資格ガイドライン」2023年4月1日適用
(一般財団法人全国大学実務教育協会)による

資格到達目標

領域 1

幅広い秘書実務に対応できる学びの基礎能力や社会と自分を知る力を備えている。

領域 2

秘書実務全体に必要な対人業務・情報業務・一般常識などに関する知識・スキル・態度、それを活用する実務実践力の基本とその学修力を身につけている。

領域 3

学びの基礎能力や秘書実務力などを活かして取り組む課題実践学修を通して、多様な職業能力の基盤となる総合的実務実践力（課題発見・解決力）と学びの継続力の重要性を理解している。

領域	本学授業科目	開発能力	学修目標
領域 1	キャリアへのアプローチⅠ	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。 ・他者への思いやりや責任感をもって学修課題を議論し、仲間と共に課題解決に向けた活動を行うことができる。
	キャリアへのアプローチⅡ	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。 ・他者への思いやりや責任感をもって学修課題を議論し、仲間と共に課題解決に向けた活動を行うことができる。
	プレゼンテーション概論	働く基礎能力	・秘書実務の学修に、基礎能力（読解力・対話力・考察力・デジタル基本スキル・言語表現力など）を活かして活動ができる。
	マーケティング論	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。
	社会調査論	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。
	カウンセリング論	社会と自分を知る力	・他者への思いやりや責任感をもって学修課題を議論し、仲間と共に課題解決に向けた活動を行うことができる。

領域	本学授業科目	開発能力	学修目標
領域2	秘書実務Ⅰ	秘書実務の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書とは何かを把握し、秘書業務における情報業務、対人業務の意義とその方法を理解することができる。 ・秘書としての基本行動に必要な社会常識、ビジネス倫理、ビジネス法規の基本的なことを理解している。
	秘書実務Ⅱ	秘書実務実践	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書としての話し方・言葉遣い・接遇対応・基本的な接遇行動（来客対応・電話対応）など対人業務を実践できる。 ・ビジネス文書（一般・秘文書）、e-mail 等、文書や情報の取り扱い・管理知識を備え、情報実務を実践できる。
	情報基礎演習	秘書実務スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使って、ビジネス関連文書（ビジネス文書、データ計算・グラフ、プレゼンテーション資料）作成の基本を身につけている。
	ビジネスコミュニケーション	秘書実務実践	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書としての話し方・言葉遣い・接遇対応・基本的な接遇行動（来客対応・電話対応）など対人業務を実践できる。 ・ビジネス文書（一般・秘文書）、e-mail 等、文書や情報の取り扱い・管理知識を備え、情報実務を実践できる。
	情報A	秘書実務スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使って、ビジネス関連文書（ビジネス文書、データ計算・グラフ、プレゼンテーション資料）作成の基本を身につけている。
	経営会計実務処理	秘書実務の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書としての基本行動に必要な社会常識、ビジネス倫理、ビジネス法規の基本的なことを理解している。
領域3	秘書ビジネス論	秘書実務の総合的実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書実務の学びの成果を活かす課題実践演習やゼミ活動を通して創意工夫をして結果を出す活動の価値に気づくことができる。
	ボランティアの実践	秘書実務の総合的実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・実践学修における失敗・活動低下・崩壊のきざしなどに対応し、多様な人と関わる活動に取り組むことができる。
	プロジェクト演習	実践学修に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果（知識・スキル・態度）を総合的実践の場で活用することができる。 ・学修した知識・スキルを深める方法を活かし、社会変化を感知して学びを継続する価値に気づいている。

プレゼンテーション実務士科目

*プレゼンテーション実務士カリキュラムガイドライン

「プレゼンテーション実務士資格ガイドライン」2023年4月1日適用
(一般財団法人全国大学実務教育協会)による

資格到達目標

領域 1

プレゼンテーションに必要な基礎能力や社会と自分を知る力を備え、実践学修ができる基礎能力を修得している。

領域 2

幅広いプレゼンテーション実務に対応する専門的知識・スキルを修得し、それを活用する力を備えている。

領域 3

学びの基礎能力やプレゼンテーションの実務学修活動を通して、総合的な実践力と学びの継続力の重要性を理解している。

領域	本学授業科目	開発する能力	具体的な学修目標
領域 1	キャリアへのアプローチ I	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。 ・他者への思いやりや責任感をもって学修課題に取り組み、課題解決に向けた活動を行うことができる。
	社会調査論	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。
	ビジネス英語コミュニケーション I	プレゼンテーションの基礎能力	・プレゼンテーションに必要な学修の基礎能力(問題発見力・情報収集力・情報編集力・提案力・デジタル基本スキル・言語表現力など)を身につけている。
	ビジネス英語コミュニケーション II	プレゼンテーションの基礎能力	・プレゼンテーションに必要な学修の基礎能力(問題発見力・情報収集力・情報編集力・提案力・デジタル基本スキル・言語表現力など)を身につけている。
	情報基礎演習	プレゼンテーションの基礎能力	・プレゼンテーションに必要な学修の基礎能力(問題発見力・情報収集力・情報編集力・提案力・デジタル基本スキル・言語表現力など)を身につけている。
	マーケティング論	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。
	経営会計実務処理	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。
	秘書ビジネス論	社会と自分を知る力	・市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。 ・他者への思いやりや責任感をもって学修課題に取り組み、課題解決に向けた活動を行うことができる。

領域	本学授業科目	開発する能力	具体的な学修目標
領域2	プレゼンテーション概論	プレゼンテーションの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションとは何かを理解し、効果的な組み立て・資料準備・資料提示など、プレゼンテーションの基本活動を理解している。 ・情報の整理、論理的な構成、効果的な資料作成、わかりやすい話し方など、聞き手の共感を獲得する方法を理解している。
	プレゼンテーション演習Ⅰ	プレゼンテーション実務の専門的知識・スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手のニーズを分析し、プレゼンテーションの目的を設定し、収集した情報を活用して、説得力のあるストーリーを組み立てることができる。 ・パソコンを活用してプレゼンテーションに必要な情報収集・情報整理をし、スライドやレジюмеなどの資料を作成でき、その効果的方法を他者に説明できる。
	プレゼンテーション演習Ⅱ	プレゼンテーションの実務実践	<ul style="list-style-type: none"> ・表現技術(言語表現・非言語表現)を身につけ、プレゼンテーションに活用できる。 ・与えられた条件のもとで、時間管理を適切に行い、目的に応じたプレゼンテーションを実践できる。
	ビジネスコミュニケーション	プレゼンテーションの実務実践	<ul style="list-style-type: none"> ・表現技術(言語表現・非言語表現)を身につけ、プレゼンテーションに活用できる。 ・与えられた条件のもとで、時間管理を適切に行い、目的に応じたプレゼンテーションを実践できる。
	コンピュータ応用	プレゼンテーション実務の専門的知識・スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを活用してプレゼンテーションに必要な情報収集・情報整理をし、スライドやレジюмеなどの資料を作成でき、その効果的方法を他者に説明できる。
領域3	プロジェクト演習	総合的実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報と論理的な話の構成、および、わかりやすい資料や聞き取りやすい誠実な話し方などの総合的表現力を身につけている。 ・学修した成果を活用して、目的に応じたプレゼンテーションを準備・実施でき、結果を振り返って次の実践に活かすことができる。
	基礎ゼミ	実践活動における学びの継続力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野や専門分野の学修の様々な場面で、学んだプレゼンテーション実務力を総合的に活用して実践することができるとともに、それを他者に教える素養を備えている。 ・学修したプレゼンテーション実務の基礎力を活かし、社会変化を踏まえて学びを継続する価値に気づいている。